

九州地質調査業協会「令和8年度定時総会」開く
事業予算や発注件数を確保し、将来の担い手育成を目指す



令和8年度事業計画案の承認やボーリングマイスター(匠)の認定証授与式が行われた「第67回定時総会」

(一社)九州地質調査業協会(古賀俊行理事長)の「令和8年度第67回定時総会」は18日、福岡市のオリエンタルホテル福岡で開催された。総会には会員40人(委任状57人)が出席し、令和7年度の事業報告や決算及び監査報告等を審議・承認したほか、①地質調査業の社会的地位の向上、②事業量の確保と受注条件の改善、③経営基盤の確立、④技術の向上・資格・教育活動の実施などを柱とした令和8年度事業計画(案)、予算(案)を可決承認した。また、「地質エンジニア連盟」の入会案内や「ボーリングマイスター(匠)九州」の認定証書授与式が行われた。

総会の挨拶で、古賀理事長(株カミナガ)は「本日は、令和8年度の定時総会にご多忙の中、多数ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。さて、令和8年ということで、ご承知のように、熊本地震から10年目の年となりました。令和8年度の公共事業関係予算は、6兆1,000億円ということでありまして、例年に比べますと大幅に増加しました。この公共事業関係予算は、防災・減災のために使われていきますし、日本の産業や社会を支えるためのインフラ整備にも使われていくものであります。言うなれば、日本の強靱化のための予算ということであります。そして、その一端を我々の業界が担っているわけでありまして、今年もぜひ、よい仕事をしていきたいと思っております。そのためにも、事業予算や発注件数の確保について働きかけていく必要がありますし、将来の担い手

を育てることも、また、大変重要な課題であります。そういったところを、当業界としても、各関係業界、全地連、そして地質エンジニア連盟と力を合わせながら、今年も活動してまいりたい」と抱負を述べた。

議事進行は、古賀理事長を議長に選出し、議題の①令和7年度事業報告、②令和7年度決算及び監査報告を審議・承認。

「令和8年度事業計画（案）」は①地質調査業の社会的地位の向上（独自性の確立と役割強化、・社会的地位の向上と領域拡大、地質情報整備・活用機構との連携支援、災害協定に基づく支援活動・協力等）、②地質調査業の事業量の確保と受注条件の改善（分離発注及び平準化の要望等）、③経営基盤の確立（経営支援策の周知等）、④技術の向上・資格・教育活動の実施（新規に本明川ダム現地研修会の実施）、⑤広報活動の実施等が計画されており、令和8年度予算（案）とともに審議、いずれも原案通り可決承認した。

総会のあと、地質エンジニア連盟の成田賢会長が「地質エンジニア連盟発足の説明と入会のお願い」について説明。令和8年度総会の「ボーリングマイスター（匠）九州」として古賀真一氏（基礎地盤コンサルタンツ㈱九州支社、福岡県）と矢野崇史氏（矢野ボーリング工業、大分県）が認定を受け、古賀理事長から2人に認定証書が授与された。認定者の矢野氏は「本日ここに、「ボーリングマイスター匠九州」という栄えある認定をいただき、



認定証授与式の記念撮影

誠にありがとうございます。この「匠」という称号は、決して私たちだけの力で得られたものではありません。これまで現場で一緒に汗を流してきた仲間や、厳しい技術を叩き込んでくださった先輩方の支えがあったからこそ、今日という日を迎えられました。これからもさらなる技術の向上に努めるのはもちろんですが、これまで先輩方の背中から学んできた職人の勘や現場の知恵を、次の世代にしっかりと引き継いでいくことも、私たちに託された大切な役目だと感じています」と謝辞と技術の伝承に向けての決意を述べた。

総会後は別室で懇親会が開かれ、業界の更なる発展と企業の躍進を願って、和やかに歓談し、お互いの親睦を深めあった。



挨拶の古賀理事長